

## 国際園芸・造園博「ジャパンフローラ2000」と植物検疫

本年3月18日から9月17日までの半年間、兵庫県淡路島で「人と自然のコミュニケーション」をテーマに国際園芸・造園博「ジャパンフローラ2000」が開催され、約700万人が訪れた。国内における国際園芸博は、平成2年の「国際花と緑の博覧会」以来である。

本博に海外から出展される植物の検疫については、会場内での検査や隔離栽培のほか、輸入禁止植物の農林水産大臣許可による展示が認められた。

開催期間中、20か国から生植物13千本、球根類11千球、切り花9千本、乾燥植物など10トンが輸入された。これら植物の中には、世界的に著名な昆虫学者ファーブルの植物標本や博物学者シーボ



シーボルトの植物標本

ルトが日本からオランダに持ち帰った植物標本も展示された。そのほか会場内においてカナダ産コケモモ苗5本やオランダ産ダリア球根など2千球

が隔離栽培により、また、ハワイ産土付きアンスリウム苗50本が大臣許可を受けて出展された。

一方、兵庫県病害虫防除所、兵庫県農業技術センターや(財)夢の架け橋記念事業協会の協力を得て、輸入植物が会場内に搬入されてから本博閉幕1か月後まで、毎週病害虫侵

入警戒調査を行ってきた。その結果、対象とする検疫有害動植物は発見されず、10月18日をもって本博に係る植物検疫対応を終了した。

### 海外のニュース

## 米国カリフォルニア州のブドウ産地でピアス氏病まん延の危機 — 媒介昆虫が分布を拡大 —

1990年以降、米国カリフォルニア州においてブドウピアス氏病を媒介するオオヨコバイ科の一種である Glassy-winged Sharpshooter (*Homalodisca coagulata*) が発生し、分布拡大を続けており、ピアス氏病のまん延が危惧されている。

ブドウピアス氏病とは、細菌 *Xylella fastidiosa* を病原とし、本菌がブドウの樹木に侵入すると、萎ちょう症状を生じ、その後樹木全体が枯死するというブドウの重要病害の1つであり、侵入を警戒している病害の一つである(本誌第37号参照)。

本虫は他の Sharpshooter と比較して体長が13~14mmと大型である。また、寄主範囲は広く、カンキツ類、アボカド等数多くの植物で生息し、急速に繁殖する。さらに、一気に10km前後も移動で



きる強靱な飛翔力を持つため、まん延能力が高い。

近年、カリフォルニア州南海岸部のブドウ産地では、ヨコバイの広がりとともに、ピアス氏病に侵されたブドウ園の面積は年々増加し、収穫量も減少し続けている。

これに対し、本年6月、連邦政府も害虫駆除対策等の緊急援助として2,200万ドルを投じることを公式発表した。(参考:

<http://www.cnr.berkeley.edu/xylella/oss.html>)

発行所 横浜植物防疫所  
〒231-0003 横浜市中区北仲通5-57 横浜第二合同庁舎 ☎(045) 211-7155

発行人 古茶武男

編集責任者 江口寛明

印刷所 内村印刷株式会社